1960年創立
国際ロータリー 第2510地区 日本 The Rotary Club of Otaru South. District No.2510
通巻 第2647号
38
2014年4月18日(金)発行

小樽南ロータリークラブ会報

ホームページ http://rid2510.org/otarusouth/
昭和35年2月5日 ●例会場/ニュー三幸 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂1-3-6 ☎0134-33-3500

●2013-2014年度 Rotary International テーマ

Engage Rotary Change Lives

「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」

ロン D. バートンRI会長

強調事項 RI第2510地区 安孫子 建 雄 ガバナー（江別RC）

- ロータリーの基本を見つめ 変革するロータリーを実践しよう
- 「RIテーマ<ロータリーを実践し みんな豊かな人生を>の理解を深めクラブと地域そして世界で活躍するロータリアンになろう」

●今日 4月18日(金) のプログラム

◎職業奉仕委員会担当例会(夜間例会)

点鐘18:30～ 於小樽マリンホール
「松前神楽」鑑賞会

●来週 4月25日(金) のプログラム

◎外部卓話

スピーカー 佐山 公一 氏(小樽商大教授)

●再来週 5月2日(金) のプログラム

◎休会となります

●第37回例会報告 4月11日(金) 「認知症について」 高木 正光 会員

■ロータリーソング■ 「四つのテスト」

■ゲスト・ビジターの紹介■

リ・アルムさん（米山奨学生）

■奨学金の授与■ 吹越会長より

■会長報告■ 吹越会長

・先週の例会は「小樽市民国際交流会議」実施中間報告＆慰労会でした。和気藹々のうちに準備等に一年あまり費やしたこの「会議」を大成功のうちに終了いたしましたこと大変喜ばしいことと存じます。

・来週の例会プログラムは、職業奉仕委員会担当例会「松前神楽」が上演されます。できるだけ多くの方々にご鑑賞いただければと思います。会員皆様方はもとより、ご家族・知人・友人のかたがたお誘い合わせのうえお出でいただきたいと思っております。

・本日の例会プログラムは、会員卓話で高木正光会員より「認知症」についてのお話があります。二年ほど前に、「人間の寿命」という卓話をされておりますが本日の「認知症」のお話も楽しみしております。

■幹事報告■ 山村幹事

・岩内RCより例会会場変更のお知らせ：4／17（木）点鐘12:30～ 場所＝岩内あけぼの学園

・米山梅吉記念館より「館報」が届いております。

・小樽市社会福協議会から「社協だより」が届いております。

■委員会・同好会報告■

◎社会奉仕委員会 坂口会員

・４月７日青空となりましたが、頬を刺す冷たい風が吹く中今年初の「春の交通安全運動」に、吹越会長・宮川副会長・廣瀬会員・阿部会員・板垣会員６名で参加して参りました。小樽ご当地キャラクター運がっぱも参加し、交通安全に協力してまいりました。会員皆様方におかれましても運転等には充分お気を付け下さい。

◎職業奉仕委員会 本間(清)委員長

・来週は「移動例会」となり、小樽マリンホールにて「松前神楽」を上演いたします。午後６時30分より例会(夕食共)を開催しホールの方へ移動し午後７時頃より神楽の上演を予定しております。一般の方々にも200枚ほどパンフを配布し参加をお呼び掛けをいたしております。よろしくお願いいたします。

◎親睦委員会 阿部委員長

・先週の「夜間例会」で、４月会員誕生会員の集合写真を撮らせていただきましたが「記念品」は本日正武家事務員が各会員へお渡ししておりますの

でお忘れ無くお持ち帰り下さい。

・先日退会された富永眞秀会員の送別会が4/25 18:00～グランドパーク小樽にて開催されます当日参加される会員は私までお申し付け下さい。

◎加藤次期会長

・4/12～13両日第2510地区2014-2015年度地区・研修協議会が開催されます。関係会員方々ご参集のほどお願いいたします。

■会員結婚祝■　４月結婚の会員

4/11大谷会員　/13新倉会員　/16坪井会員
23白石会員　/27齊藤会員　/27宮川会員

◎例会プログラム

認知症について

高木正光会員

認知症の典型的な事例を見てみましょう

「主人は、２年前から物忘れがひどくなり、日ごろの言動にも異常が目立ち始めました、近所の病院に行ったところ「アルツハイマー型認知症」診断され、内服薬による治療が始まりました。しかし、薬を飲んでも状態が改善しません、それどころか、しだいに悪くなっていきます。いつも夕方５時近くになると、落ち着きがなくなり、ウロウロと歩き回ります。目につく物を手にとってはその辺りに置きっぱなしにします。「どうしたの」といっても主人が何を言っているのか全くわかりません。時間が経つにつれて状態はひどくなります。動きが激しくなり、夜であっても、雨であっても外に飛び出そうとします。「もう夜だから、家にいましょう」と言っても全く言うことを聞きません、止めようとすると目つきまでおかしくなります。「医師に相談しても認知症ってそういうものです、薬をきちんと飲ませて下さい」というばかりです。真夜中になって、主人は漸く疲れて眠くなるのか、布団には入ってくれます。その頃には私は疲れてクタクタです。この状態が、もう少し続くようならば、きっと共倒れになります。」

認知症患者は高齢化社会を反映して確実に増加しており、我が国では、昨年その数は400万人を超え、20年後には更に漸増して800万人に達すると推測されている。

認知症の中でもアルツハイマー病は約半分を占め、その病態解明と治療、介護に関する様々な研究が行われてきている。その病理、病態に関しては漸く明らかになりつつあり、治療に関してもアルツハイマー病克服のための研究は、確実に前に進んでいるように思われる。これまでに研究、知られてきた認知症の種類、病状、診断、治療、介護について、特に予防法についてお知らせした。一言で云えば運動と脳を使うことです。

認知症について

■出席委員会■

・平成26年４月11日

会員総数　69名　本日の欠席者　７名

石上、岡﨑、角野、永原、佐藤(公)、鈴木、前川、

・平成26年３月28日

会員総数　70名　移動例会につき　100％

３月確定出席率　91.76％

■メーキャップ■

４/11　岡﨑（地区）

●記事担当/東会員